

半値幅

半値幅 はんちはば

放射線の性質を知るためには、放射線検出器を用いてそのエネルギー分布（放射線の持つエネルギーとその頻度の関係）を測定することが必要となる。この場合、単一エネルギーを持つ放射線を測定したとしても、検出器を通して得られるエネルギー分布は一般に広がりを持ったピークとなる。このピークの高さの2分の1の高さにおけるピークの広がり幅を半値幅、またはFWHM（Full Width at Half-Maximum）という。半値幅で表されるエネルギー幅をそのピークのエネルギーで除した値はエネルギー分解能と呼ばれ、放射線検出器のエネルギー測定性能の目安として用いられる。

<登録年月>

1998年01月
